

# 2022 年度 事業報告書

はじめに

1) CHARM20 周年記念事業	1
2) 外国語電話相談	3
3) HIV 陽性者の個別支援	5
4) グループプログラム	8
5) 多言語支援	9
6) 広報	16
7) 実習・研修受け入れ	17
8) 理事会	17
9) 会員総会	18
10) 事務局	18
11) 会員	18
12) 寄付者名一覧	18



# はじめに

3年間の新型コロナウイルスの流行の波は落ち着き、社会活動が活発になりつつあります。2023年5月8日から感染症法上の位置づけは、5類に移行しました。これに伴い、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく基本的な指針や業種別ガイドラインは廃止となり、感染対策は、それぞれの判断にゆだねられることとなります。しかし、感染症がなくなったわけではなく、ウイルスの特徴を理解した中で、感染経路の遮断及び換気は必要であり、ワクチン等の対応や重症化しやすい集団(医療機関・高齢者施設等)での感染拡大予防の取り組みや急激な感染拡大前の周知、対策の強化がこれからの課題となります。

さて、思い起こせば、3年前、中国武漢から広がったコロナウイルス感染症。未知であるがゆえに混乱をきたし、風評被害や犯人探しがはじまりました。繰り返される歴史、医療現場で検査、診療拒否や、事業所、集団でのクラスターが多発。繰り返される感染の波ごとに対策の強化をはかり、取り組むのもつかのま、想定外の感染拡大により医療のひっ迫がおこり、患者搬送、検査体制整備、健康観察、地域体制づくりと、保健所の業務も整理しながら、地域の医療機関や医師会、訪問看護 ST と協議をしつつ、感染に強い地域づくりに向けて、奮闘した日々でした。

「感染症は人を選ばない」と言いますが、2類相当の感染症であったため、コロナに感染したすべての人に、健康相談を行っていた当初は、地域の課題が浮き彫りになりました。すなわち、支援が必要であるにも関わらずコロナに感染していないために行政サービスの網からすり抜けていた人たちがいたのです。この人たちは、SOSを発信することが困難な、認知症の独居の方や引きこもり、外国人の方々です。また、有料ホームやサービス付き高齢者住宅にひとたび感染症が入り込むと、施設がパニックとなる現状も明らかになりました。

3年間、駆け足で、目の前の課題に奮闘してきましたが、災害時と同様、平時にできていないことは、感染症の流行期には対応できるはずがないということも、痛感しました。

今後は、コロナ禍で築かれた関係機関とのつながりを大切に、今回の経験を風化させないように継承することが、次のミッションとこころしています。

2022年にCHARMは20周年を迎えました。この20年間にCHARMに関わった人たちは、細く、長く、広くつながっています。様々な人とのつながりが、新たな課題に気づかせてくれます。そのつながりをたどりながら、CHARMに関わった人たちを全員招待し、「CHARM ホームカミング」を開催します。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。追ってご連絡いたしますので、ぜひ参加してください。

福村和美(保健師、CHARM 理事)

● 2022 年度 CHARM 事業報告書

1) CHARM20 周年記念事業

外国人、日本人のへだてなく、日本国内に住むすべての人が言葉の壁を超えて医療につながり、心身の健康を保てるようにと始まった CHARM の活動は 2022 年度に設立 20 周年を迎えた。

2022 年度と 2023 年の 2 年間にわたり、20 周年記念事業を行うことを通して国内外のネットワークを強化し、より多くの人々に CHARM を知っていただくことを通して市民活動の入り口と支援者の輪を広げることを目指した。

1-1) CHARM20 周年記念ロゴと記念グッズ

CHARM20 周年の 1 年目である 2022 年度は、最初の取り組みとして 20 周年記念ロゴを作成し記念グッズをデザインした。

CHARM が設立当初から使っているオリジナルロゴに加えて新たにロゴを 2 種類作成した。20 周年記念メインロゴは、CHARM の基調である青色を基に、真ん中に数字の 20 年目を表す 20th と CHARM オリジナルロゴの手書き現版を入れた。20 周年記念サブロゴは、CHARM が目指す「すべての人が健康に生きることができる社会を表す多種多様な人々」をイメージした。2 種類のロゴは、総務担当の松原光与がデザインした。

作成したロゴを使って、缶バッジを 3 種類、20 周年ロゴのシール(大、小)、シール付き A5 版のクリアホルダーと一筆箋を作成した。

これらの 20 周年グッズは、来館者、ボランティア、会議やイベント、一定額以上の寄付者に感謝の意味を込め配布した。好評のため追加作成し、2023 年度もプログラム開催の際などに配布予定である。また、遠方で 20 周年記念グッズを受け取る機会がない方は、お知らせくだされば郵送いたします。

オリジナル



20 周年記念メイン



20 周年記念サブ



缶バッジ



クリアホルダー&一筆箋



## 1-2) 20周年記念事業 国際フォーラム

### Asian Forum on HIV and Migration/移民と HIV に関するアジアフォーラム



HIV 陽性者が国境を超えて移動する際に服薬治療が中断されることのないように、NGO や医療従事者が各国における HIV 診療の実情を知り、相談先を明確にすることで、移住する HIV 陽性者が安心して治療継続ができる環境を目指してフォーラムを開催した。フォーラムは、2022 年 11 月 23 日(水曜日祝日)15:00-18:00 に zoom によるウェビナーの形式で行ない、52 名が参加した。

フォーラムは、英語を主要言語とし、以下の人々がそれぞれの国で外国人が HIV 医療にアクセスするまでの過程と課題を説明し、意見交換を行った。

- 1) タイ Shiba Phurallatpan (APN+)
- 2) ベトナム Do Dang Dong (Vietnam Network of People living with HIV)
- 3) ミャンマー Myo Thant Aung (Pyi Gyi Khin)
- 4) 台湾 Fletcher (Persons with HIV/AIDS Rights Advocacy Association of Taiwan)
- 5) インドネシア Daniel Marguari (Spiritia Foundation)
- 6) 日本 青木理恵子 (NPO 法人 CHARM)
- 7) 韓国 Jae Kim (Network of HIV/AIDS Human rights Activists)



各国の HIV 事情はフォーラム終了後パネルとして整備し、各団体のホームページで今後掲載していく予定である。アジアの国に移住しようとする HIV 陽性者が情報を得て、移動先の診療体制について確認できることで治療の継続に関する不安を軽減することを目指した。フォーラムに参加した団体は、団体の名称、連絡先、担当者名を公開することにより確実に相談できる先を見える形にした。

HIV 陽性者が 7 つの国に移住した際に HIV 診療までの手順を具体的に示し、手続きに必要な条件や書類、使用されている薬のリストと支援団体の連絡先を記載した資料を日本語と英語で作成した。近日中に CHARM のホームページからダウンロードできるようにする。また英語版資料は、フォーラムに参加した 6 団体にも提供され、それぞれの国からアジアの国に行こうとする HIV 陽性者の移住への一助として活用してもらおう。今後、対象国を増やしていくことで安全な HIV 治療継続支援ネットワークを広げていきたい。

### 1-3) 20周年記念「つなぐ・まもる・つむぐ」募金

20周年記念事業の一環として「つなぐ・まもる・つむぐ」募金を実施した。



募金の趣旨は、CHARM がこれまで行ってきた国内外の団体との連携(つなぐ)をさらに強化し、HIV 陽性者や外国人の健康と権利を守るための活動を前に進め(まもる)、人々が出会い、関わり、共同する(つむぐ)機会を創り出す取り組みを大胆に進めるための経費を多くの方々に支援していただくことを目的とした。

募金期間は 2022 年 6 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの 1 年半で目標額 200 万円に対して 2023 年 3 月 31 日までの合計額は 729,000 円である。

2022 年 6 月から 2023 年 3 月までの間に個人 47 人、団体 2 の方々が賛同して寄付してくださった。寄付者のお名前は、以下 12)に掲載している。青木事務局長が出身大学の同窓会から Distinguished Alumni of the Year (今年の優れた卒業生)賞を授与され、授賞式で多くの人たちに CHARM の働きを伝え賛同を得た。寄付者は、一般寄付、20 周年記念募金を合わせて、個人 114 人、団体 6 法人が支援をしてください、20 年の歴史の中で最も多くの支援を受けることができた。20 周年記念事業として実施した国際フォーラム Asian Forum on Migration and HIV を賛同者からの募金で開催することができた。又 20 周年記念グッズを作成し、多くの方に CHARM を知っていただく手段を作ることができた。

### 2) 外国語電話相談

活動開始年：2002 年

目的：日本語以外の言葉を話す人たちが理解できる言語で HIV、他の性感染症についての相談、検査や診療に関する情報を得る機会を提供するために 5 言語で電話による相談を行っている。

頻度：毎週火曜日 スペイン語、ポルトガル語、英語、16:00-20:00

水曜日 中国語 16:00-20:00

木曜日 英語 16:00-20:00

委託元：大阪府、大阪市

2022 年度は 131 件の相談を受けた。2021 年度の 152 件より 21 件少なくなった。傾向としては電話相談件数が減った一方、ホームページのお問い合わせフォームによる HIV 関連のお問い合わせが昨年度より増えている。2022 年度は 76 件(2021 年度 54 件)だった。

言語別相談数は英語が一番多く 36 件、中国語 22 件、日本語(外国人)22 件、ポルトガル語 17 件、スペイン語 16 件、日本語(ネイティブ)8 件、医療機関 7 件、フィリピン語 2 件、タイ語 1 件だった。

中国語の相談をはじめて 2 年目になり、2021 年度相談に比べて件数が増加した(+18 件)。また使用言語の日本語を日本語が母語のネイティブと外国人で日本語を使って相談した非ネイティブに分けて統計を取ることで、日本語が話せる外国人が多く相談していることが明確になった。

2022 年度 対応言語及び件数

言語 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
英語	1	1	2	1	1	2	3	6	4	3	2	10	<b>36</b>
中国語	2	4	3	3	0	1	3	3	1	0	0	2	<b>22</b>
日本語(非ネイティブ)	0	1	1	0	3	5	1	1	2	4	3	1	<b>22</b>
ポルトガル語	0	3	1	0	0	1	0	3	3	0	3	3	<b>17</b>
スペイン語	0	0	4	1	4	1	2	0	2	2	0	0	<b>16</b>
日本語(ネイティブ)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5	1	8
医療機関	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	7
フィリピン語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
タイ語	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	5	10	12	7	8	10	9	14	14	11	14	17	131

相談内容については、件数の多い順として「外国語の通じる抗体検査会場紹介」が 29 件、「HIV に関する情報」24 件、「行政手続きの方法」23 件、「陽性者 その他」21 件だった。2021 年度 10 件だった外国語の通じる抗体検査会場の紹介が 3 倍近く増えた。コロナ禍で中止していた保健所による HIV 抗体検査が再開し、受検機会を待っていた外国人が検査行動を開始したことを示している。行政手続きの方法についての相談も増加した。入国制限が緩和されたことにより 2022 年春ごろから新規に入国した外国人の増加を反映している。

2022 年度 相談内容(複数回答あり)

内容 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
外国語の通じる抗体検査会場紹介	1	2	1	1	2	1	1	2	3	3	2	10	<b>29</b>
外国語の通じる医療機関の紹介	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	15
行政手続きの方法	3	2	2	0	1	4	1	0	2	2	2	4	<b>23</b>
性感染症、婦人科系の問題	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	1	1	7
HIV に関する情報	1	2	1	1	0	2	3	3	5	4	1	1	<b>24</b>
陽性者の症状、薬の副作用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性者の社会福祉制度、医療費、薬価	1	2	2	0	2	0	0	2	0	1	3	1	14
陽性者の不安、心理的問題	1	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	7
海外の HIV 診療事情、受入れ機関紹介	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	5
陽性者 その他	1	3	5	0	4	1	1	2	3	1	0	0	<b>21</b>
医療機関紹介	0	2	1	1	0	0	2	7	1	0	1	1	16
NGO/NPO 紹介	0	0	0	2	0	0	0	2	1	1	1	1	8
HIV を含む性感染症への不安	0	2	3	0	0	1	4	1	0	1	2	1	15
陽性者の家族、パートナー等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	0	1	0	2	2	1	0	1	0	0	3	1	11
合計	9	16	17	10	14	13	16	22	18	15	22	25	197

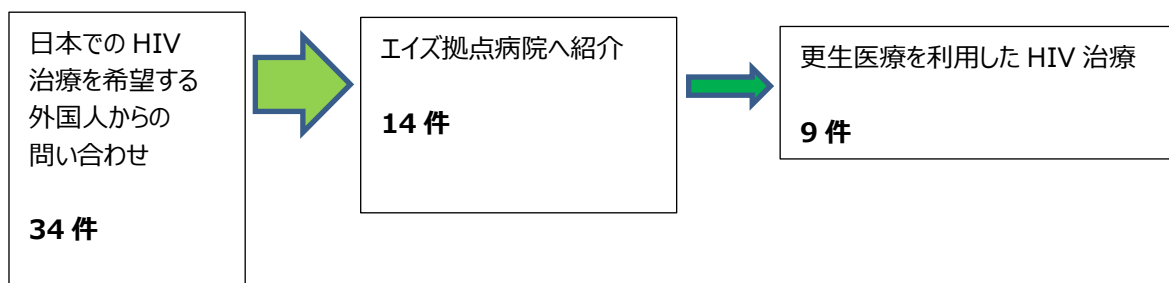
### 3) HIV 陽性者の個別支援

#### 3-1) 移住 HIV 陽性者支援

移住海外から日本に移住する予定、またはすでに来日し生活を始めている HIV 陽性者からの問い合わせは 69 件であった。

相談の内容別内訳は、出身国で HIV の診断を受けて治療を開始している人が、移住先の日本でも治療を継続したいがどこの医療機関に行けば良いのか、薬はどのようにして手に入れるのか等の情報に関するものが 34 件、日本で生活している HIV 陽性者からの相談が 30 件、日本人または日本で生活している外国人が海外に移住する際の移住先の HIV 診療事情に関する問い合わせが 5 件であった。海外から移住し、日本でも HIV 診療の継続を希望した人 34 件の内 14 件は、エイズ拠点病院に紹介した。3 件は「ぶれいす東京」に紹介し、17 件は連絡が中断した。エイズ拠点病院に紹介した 14 件の内、医療機関にはつながったが、身体障害者手帳申請の際の基準を満たしていないため高額療養費限度額内で医療を受けることになったものが 1 件、海外から薬を個人輸入するか出身国の病院から続けて提供してもらうことになったものが 3 件、不明が 1 件で、自立支援医療(更生医療)を申請して日本で HIV 診療を受けることができたのは 9 件であった。

#### HIV 治療の希望と日本での安定した治療継続の課題



CHARM では、HIV 治療の継続に関する相談に対してエイズ拠点病院への受診につなぎ、必要に応じて多言語医療通訳を配備し、診療後もフォローアップする包括的な支援を行っている。コロナ前は関西に限られていた支援は、コロナ禍でオンライン通訳が医療場面でも受け入れられるようになった結果、多言語支援の対象が関西圏のみならず島根県、新潟県、千葉県、東京都、宮城県と範囲が広がった。首都圏のケースは「ぶれいす東京」と連携して支援を実施した。

#### 3-2) 日本に居住する HIV 陽性者の個別支援

日本に在住する HIV 陽性者の生活は健常者と同じように多様となり、一人一人が必要とする支援も多様となっている。服薬を早い段階から開始して毎日続けることによりウイルスを抑制することができるようになり、HIV による症状や不安は大きく軽減した。2022 年度個別に支援した人たちは、受刑中の人たちへの文通による支援 27 件、出所後生活の支援 2 件、服薬中断者へのメールによる定期的な連絡 8 件、生活困窮者への緊急物資の提供、生活保護申請支援など 23 件、HIV 陽性者家族への対面相談、刑務所への同行支援 17 件、資格取得に向けたボランティアによる学習支援 30 件であった。

#### 3-3) HIV 陽性者の同行/訪問支援「そよかぜ」

活動開始年：2015 年

活動内容：独居患者が心身ともに健康に生活するために公的支援が適応しない支援をエイズ拠点病院や訪問看護ステーションと共同して提供している。病院同行、入退院の支援、散歩や買い物等の手伝い、などは行政機関や病院からは家族が行うことを期待されており、家族支援助を得られない人は断念せざるをえないことも多い。継続支援を希望する人に日頃から関わることで信頼関係を築き、

いざとなった時に頼れる存在となることを目指す。

メンバー：5名がボランティアで活動している。1名職員 計6名

臨床心理士1名 看護師2名 保健師1名 助産師2名

活動頻度：必要に応じて随時

会議開催頻度：毎月 第2木曜日 13:00-15:00

今回は緊急自粛のためメールにて25回の情報の共有を行い、会議はZoomと対面にて実施、年5回開催した。

そよかげの対応は、コロナ禍の自粛環境の中、2021年29件、2022年は27件(訪問/同行)その他は28件(訪問者との重複有)でLINE/電話は21件、食事会4回、役所同行1件、食事支援同行1件、NPO同行1件であった。

支援の具体的内容は、認知機能が低下している方が病院を受診する際の同行、生活保護申請に向けたNPOでの相談への紹介、在宅酸素療養中の方の話し相手、生活困窮の方への食事会を実施した。情報を共有しながら病院のソーシャルワーカーや訪問ステーション担当看護師との共同支援が行えた。

話し相手の内容は、高齢や独居に起こりやすい、身近に頼れる人がいない現状から起こる孤立を防ぎ、繋がりを継続していくことで、不安から安心へと変えることの大切さを感じた。

グループ内の情報共有はコロナ禍による感染自粛も重なり各自が訪問後にメールをして情報を共有しながら問題解決に向けた意見を交換した。チーム内のメール件数は26回であった。会議は主にオンラインを利用し実施した。それぞれが意見を出し合い、支援者の問題を明らかにしながら支援の方法を確認していった。また、メンバーを対象とした研修「HIV陽性告知について」(10月)を行なった。一方、地域の訪問看護師を対象とした研修(8月)、大阪人間科学大学主催の研修の中で「HIV陽性者の地域生活を支える」と題して講演を行った。(2月)多くの人たちにそよかげの活動を知ってもらう良い機会となった。

2023年度の訪問目標は「繋がり」をキーワードとして支援者の個々に合った支援方法を考え、訪問看護ステーションや地域との繋がりも持ちながら、公では出来ない家族的支援活動を行ってきたい。

### 3-4) HIV 総合相談窓口 SO SO SO (HIV陽性者のためのメール相談)

活動開始年：2021年10月開始 HIV総合相談窓口 SO SO SO

活動内容：HIV陽性者の方やパートナー、家族等のための無料メール相談

目的：

- 1) HIVで情報を得たい人や相談したい人が、時間に関係なくメールで相談することで、問題解決に向けた一歩を進める一助とする。
- 2) CHARMで活動している専門家も含めた人々にその能力と才能をボランティアで発揮してもらい相談者のニーズに近い対応をチームで行う。

開催頻度：必要に応じて随時

登録専門家 医師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師、HIV陽性者の方等

委託(報告)元：大阪府健康医療部

陽性者への総合相談窓口 SO SO SO は2年目に入った。相談件数は2021年度4件、2022年度11件(内1件は昨年継続者)であった。

コーディネーターは、問題点を明らかにして担当者に繋ぐケースやカウンセリングとしてメールのやり取りを行った。メール連絡の回数は、継続した相談で6~14回であった。メールでのやり取りを通して相談者の気持ちの整理を行い、少し前に進む気持ちを創ることに努めた。

今回の相談内容には、3年前にHIV/AIDSと告知されたが、同時期に仕事を失う等の中でこのまま死んでしま



いたいと ART 療法拒否を続けている人や、他国に在住でパートナーの HIV/AIDS および単純ヘルペスについて正しい知識を知りたい、HIV 陽性となった息子の母親からの相談、HIV と AIDS の違いを知らない方からの差別的な発言に悩んでいる、障害者施設職員からの正しい HIV の知識を学びたい等の相談であった。相談内容により、各専門家の医師、陽性者の NGO、カウンセラーにつないだ。HIV に関する正しい知識の説明は、パワーポイントを使用して実施した。これらによって、内服拒否していた人は 1 月から ART 療法を開始することができた。また HIV の知識を職場で広め気持ちよく仕事出来る等相談者の背中を押すきっかけをつくることが出来た。引き続き、広報活動を広め表在化されていない方々の相談を受ける環境を少しずつ整え、相談者が前向きに進める一歩となる支援活動を継続して行きたい。

### 3-5) エイズ専門相談支援事業 (大阪市)

活動開始年：2002 年

目的：

- 1) 大阪市保健所が行なっている HIV 検査後に検査結果が陽性と判明した人にカウンセリングを行い、必要とする情報を提供することで、不安を軽減し診療に向かうことを目的とする。
- 2) 大阪市立病院で通院または入院治療を受けている患者の要望に応じてカウンセリングを行う。
- 3) 中央区、北区の保健福祉センターで月 2 回ずつ HIV 検査時に受検者に HIV をはじめとした性感染症等の相談の機会を提供する。

登録カウンセラー：臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師、計 5 名

頻度：必要に応じて随時

委託元：大阪市保健所

3 年にわたるコロナ禍の中でも、2022 年の第 8 波は今までにない勢いで感染者が急増した。しかし、2023 年に入り収束に結びついている。そのような中、定例専門相談員、HIV 陽性告知時のカウンセラーを派遣した。

今年度、保健福祉センターの陽性告知件数は定例相談、告知を含めて年間 82 件であった。2021 年に比べて 2022 年は 9 件減少しており、告知件数は、9 件と前年の半数 (2021 年度 18 件) であった。コロナ禍でコロナ感染を避けた結果 HIV 感染の不安を持ちながらも検査に行くことをためらう状況が続いた結果であると考えられる。大阪市立病院へのエイズ専門相談員の派遣 28 件であり、病院でのカウンセリングへの要望には変わりなかった。

中央区、北区の 2 保健福祉センターでの各月 2 回 HIV、STD 無料検査時の定例相談の相談件数は増加した。全国的に梅毒感染者数が増加しており梅毒、HIV、単純ヘルペスの相談が多かった。と同時にコンドーム使用の大切さを伝えた。

相談員の連絡会議は年に 2 回 10 月と 3 月にオンラインでの会議を行なった。また 11 月には「陽性告知の対応」をテーマに研修会をオンラインにて実施した。告知時の心理社会的支援の基本的な考え方、視点、相談者の具体的ニーズや対応について、それぞれが知識を深める機会となった。

### 3-6) 和歌山県エイズカウンセラー派遣事業

活動開始年：2020 年

目的：和歌山県立医科大学付属病院にて、エイズ患者または HIV 感染者およびその家族に対するカウンセリングを行う。

頻度：月 4 回

委託元：和歌山県

2022 年度は月 4 回、計 48 回の派遣を実施し、対応件数は延べ 27 件だった。2023 年度も引き続き派遣

する予定である。

#### 4) グループプログラム

##### 4-1) 女性陽性者交流会

活動開始年：2007年

目的：女性 HIV 陽性者が、同性の仲間と出会うことで孤立を防ぎ安心して暮らすことに繋がる機会をつくる。

活動内容：年に一度1泊2日の多文化キャンプを実施し、女性 HIV 陽性者や医療者に出会う機会を作ってきた。2020年度から形式をオンラインに変更している。

開催頻度：多文化キャンプは年に1回（新型コロナ予防対策のため中断中）

オンライン女性交流会は2ヶ月に1回（曜日、時間は不定）

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2020年以降 COVID-19の影響により、対面のプログラム「多文化キャンプ」に代わり実施してきたオンライン女性交流会は三年目を迎え、2022年度は2ヶ月に1回、合計6回開催した。参加者は延べ人数59名で、そのうち外国籍女性14名、新規参加者は4名（うち外国籍2名）であった。内容については、外部講師による講義「アーユルベダのセルフケア」1回、医療者と話す会を1回実施した他、近況報告とテーマを決めてディスカッション形式を行うものを4回実施した。今年度は、女性たちが比較的参加しやすい週末の夜に交流会を実施したが、それでも日程が合わず参加できない人もあり、さらに開催日程の工夫と早めの告知を行う必要がある。

参加した女性たちからは「定期的に他の女性たちに会える機会があるのは嬉しい」「医療者から話を聞き、相談できたのが良かった」「他の女性たちと情報を共有できたのが良かった」という仲間の場の必要性についての意見が寄せられた。オンライン女性交流会は毎回10名前後の参加者に加えて新規の参加者もあり、女性たちが集まる場・出会う場としての本プログラムのニーズは、以前と変わらず高いことがわかる。また普段は他の女性 HIV 陽性者に出会う機会がない彼女たちにとって、女性交流会は対話から有益な情報を得ることで疑問や不安を解消し、精神的に孤立する状況を防ぐのに重要な役割を果たしている。

次年度は女性たちからの希望もあり、コロナ以前に実施していた夏の多文化キャンプを再開する。引き続きオンライン交流会は継続して実施し、より多くの女性たちが女性交流会に参加して他の女性たちと出会い、交流できる機会を作っていきたい。

##### 4-2) 薬物依存症からの回復を目指す陽性者のピアグループ SPICA

活動開始年：2012年

活動内容：陽性者で薬物依存症からの回復を目指す人たちが集まる仲間（ピア）のグループミーティング。HIV、セクシュアリティなど互いに理解し合える要素を共通にもつ仲間が、お互いを支え合うためにつながる場として月2回のミーティングがある。

開催頻度：月2回 第2日曜日、第4土曜日 16:00-18:00 に開催。

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2022年度は24回実施し、参加者は1回当たり1名から5名であり、延べ63名が参加した。2022年度は新たに就職した人が2名、服役中の人々が3名あったためミーティング参加人数が少なかった。これまでグループミーティングの運営は、支援するスタッフが中心に行っていたが、今年度からグループメンバーが主体的に運営することとし司会・進行の役割を担った。月2回のミーティングでは、グランドルールの読み合わせを行なった後、72項目のリストからその日のディスカッションで話す「お題」を選ぶ。参加している人たちはしばしば考えてから自分の思いを語り、お互いに質問をして思いの共有が始まる。題名の例としては、「薬がなぜ止まり始めたのか？」「自分が依存症だと気づいた時」「自分の感情に目を向ける」などである。自分の思いを言葉にすることを通して自分の状況と気持ちを整理す

ることが第一の目的である。また同じような経験をもつ仲間と悩みを共有することでお互いに励まし合う関係性を構築することを目指している。

#### 4-3) Social Connection -つながり-

活動開始年：2020年 終了年 2022年
活動目的：人とのつながりを積極的に作り HIV 陽性者が孤立することを防ぐ。医療者/患者、利用者/支援者などの属性を越えて経験している現実を知り意見交換をする機会とする。
活動内容：毎回のトピックに沿った話題提供と参加者の話し合い
開催頻度：毎月第2土曜日 15:00-16:30
委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

コロナ禍で人が直接出会えない中、オンラインでつながる機会を毎月1回設け、人々がつながる機会とした。感が収まる方向が見出せた 2022 年度末で同プログラムは終了し直接出会う機会を増やす。

No.	日付	テーマ	話題提供者 (敬称略)	参加
1	4/9	交流と対話の場 街の本屋	坂岡隆司	11名
2	5/14	外国人介護士によるミラクル介護	外国人介護士	19名
3	6/11	虐待という経験を通り抜けて	しゅん	11名
4	7/9	ウクライナからの避難民の受け入れ についてどう感じるかを話し合う	なし	9名
5	8/13	医療通訳者の野望	村松紀子	19名
6	9/10	街のお薬屋さんってどんなところ？	迫田直樹 (薬剤師)	17名
7	10/8	Mangi ci jam ～セネガルの暮らしにある平和の イスラム文化～	オンバダ香織 (BokJanbaar)	6名
8	11/12	福島県の児童養護施設、低線量被ばく下の子どもたちの健康を考える-これまでの活動とこれから-	小田美乃里 (福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会協力医)	12名
9	12/10	日本の刑務所 社会復帰につながる刑務作業、懲罰、教育とは？	五十嵐弘志 (NPO 法人マザーハウス理事長)、田嶋千里 (元刑務所勤務)	13名
10	1/14	薬害エイズとは？ - HIV 感染者が身体障害者認定の対象となったことの意味-	若生治友 (ネットワーク医療と人権 MARS 理事長)	20名
11	2/11	ある在日コリアンの出会い -大阪、濟州島、ヘルシンキ-	朴沙羅 (ヘルシンキ大学文学部講師)	16名
12	3/11	Social Connection のこれから 2023 年度にもう少しオープンな実施可能な企画 について	なし	8名

#### 5) 多言語支援

##### 5-1) HIV と結核の通訳派遣事業

活動開始：2002年
活動目的：日本語以外の言語を背景とする人が、自分が理解できる言語で安心して診察を受けるために必要な医療通訳者を医療機関、保健所などに派遣する。
活動内容：
1) HIV 通訳派遣
内容：HIV 陽性者の診療時、行政窓口やその他の手続きの際の通訳

(同行、電話、遠隔映像)

委託元：厚生労働省

2) HIV 検査時通訳

内容：自治体、NGO 等が行う HIV 検査、結果返しの際の通訳(対面、遠隔)

委託元：京都市、MASH 大阪、スマートらいふネット、大阪市、大阪府、杏林大学

3) 結核通訳派遣

内容：結核感染者の受診、接触者検診、DOTS 指導、濃厚接触者等に関する聞き取りの際の保健師と患者の間の通訳、資料翻訳

委託元：大阪府、大阪市、堺市、八尾市、寝屋川市、枚方市、吹田市、高槻市、京都市

4) 感染症(HIV、結核)以外の通訳派遣

内容：悪性新生物、クローン病、感染症関連等

5) 医療通訳研修

内容：登録通訳の知識更新のため、また新規の通訳者採用前の基礎知識習得のために実施

委託元：杏林大学

登録通訳者：74 名(18 言語)

#### 5-1-1 )HIV 医療通訳事業

2022 年度は外国語の HIV 診療時等の通訳を 187 件実施した(2021 年度 119 件)。

HIV 診療時の通訳派遣は大阪医療センター、大阪市立総合医療センターへの英語をはじめとした派遣回数が増加した。堺市立総合医療センターは中国語、兵庫医科大学附属病院はネパール語のみの通訳支援であった。海外から移住した HIV 陽性者の日本国内での継続治療の支援を行った人たちの大半が医療通訳を希望したため、遠隔通訳を活用したケースが増加した。遠隔通訳としては、zoom を使った映像通訳を 19 件、電話通訳を 21 件行った。特に都立駒込病院とは映像通訳を 13 件、島根大学医学部附属病院とは電話通訳を 12 件実施した。

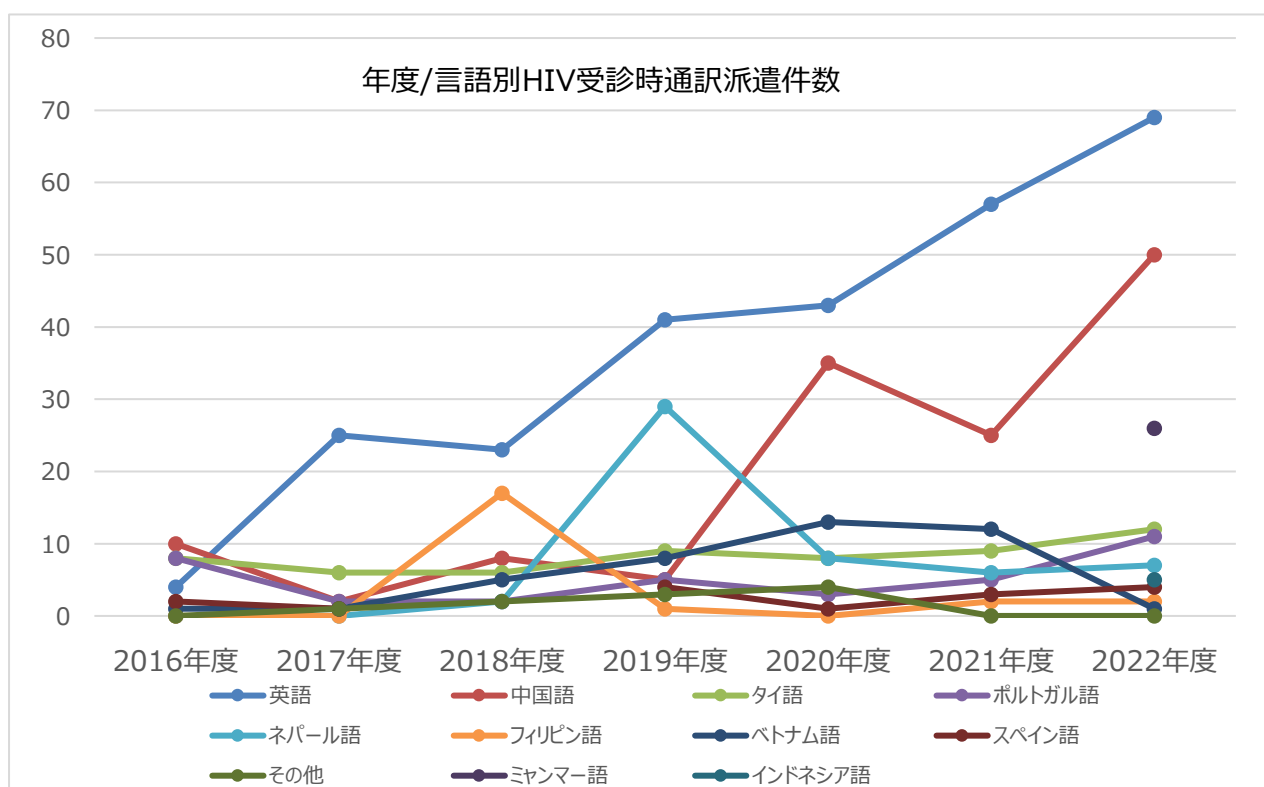
通訳の対応言語は、英語 69 件(37%)、中国語 50 件(27%)、ミャンマー語 26 件(14%)と 3 言語が 77% を占めた。それ以外にはタイ語、ポルトガル語、ネパール語、インドネシア語など 10 言語で対応した。英語通訳を派遣したケースの国籍は、アメリカ合衆国、カメルーン、ジャマイカ、ナイジェリア、チュニジア、インドネシア、ジンバブエ、フィリピンであった。

通訳を利用した病院の科については、感染症内科、糖尿病内科、消化器科、眼科であった。HIV 陽性者が複数の診療科を受診し、数名は手術を受けたため、看護師面談、MSW 面談、薬剤師面談時など感染症科以外での通訳が必要となった。今年度は、受診日を決定した後に患者の希望で変更となるケースが多く、連絡等に時間がかかった。個々の事情はあるにしても事前の連絡方法を工夫する必要がある。

梅毒に罹患した患者も複数人おり、抗生物質の処方や副作用の確認のため定期受診以外の通訳も実施した。全国のエイズ拠点病院にパンフレットを配布し、CHARM が行う HIV/AIDS に係る医療通訳者が研修を受けて医療通訳事業の周知を医療従事者に周知する取り組みをおこなった。

2022年度 HIV 関連の医療通訳実績(件数)

		英語	中国語	スペイン語	ポルトガル語	ベトナム語	ネパール語	フィリピン語	タイ語	インドネシア語	ミャンマー語	合計
HIV 診療	大阪医療センター	54	18	4	0	1	1	2	12	0	6	98
	大阪市立総合医療センター	6	10	0	3	0	1	0	0	0	0	20
	堺市立総合医療センター	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	兵庫医科大学病院	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	兵庫県立尼崎総合医療センター	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
	都立駒込病院(ZOOM)	0	5	0	0	0	0	0	0	0	8	13
	島根大学附属病院(電話)	0	0	0	8	0	0	0	0	0	4	12
	北海道大学病院(電話)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
	中村クリニック	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他の医療機関	1	1	0	0	0	1	0	0	4	0	7
行政機関	神戸市西区役所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	自宅	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	合計	69	50	4	11	1	7	2	12	5	26	187



## 5-1-2) HIV 検査通訳事業

### ① 大阪市保健所

大阪市 HIV 検査後の陽性告知時に中国語の通訳を 1 回派遣した。

### ② chotCAST HIV 検査会場

2022 年 8 月より 2023 年 3 月まで、月 1 回の通訳付検査時に中国語、英語、ベトナム語の通訳支援を行った。中国語は毎月、英語とベトナム語は隔月に通訳者が待機した。対応言語は英語が 8 件、中国語各 8 件、ベトナム語 7 件合計で 23 件実施した。この内英語 3 件は、結果返し時の同席通訳である。

### ③ dista でピタッとちえっくん

MASH 大阪が実施しているコミュニティセンターdista でのゲイ・バイセクシュアル向けの HIV 検査において zoom を使った遠隔映像通訳を行うために英語、中国語の通訳者が 6 回待機し、英語通訳を 1 回実施した。検査後の陽性告知時には同席で英語を 2 回、中国語を 1 回実施した。

### ④ 京都市夜間検査

2022 年度も円町にある京都工場保健会へ英語通訳者を派遣した。18 回の派遣で、延べ 38 人の通訳を行った。年度末にかけて予約希望者が増え、検査を希望する人たちが増加したことを反映している。

### ⑤ 杏林大学 HIV 検査

2022 年度からの事業。下記 5-1-5) 医療通訳者研修から派生した事業で、厚生労働省の研究事業\*脚注の一環。イベント検査、自治体の HIV 検査時の遠隔映像通訳を実施。2022 年度下半期に依頼を受け、通訳実施のシステムを整え広報開始。9 月以降研究班主催の東京都、沖縄県の 4 イベント会場で 9 件、3 月に入り自治体からの依頼で 1 件通訳を実施。いずれも遠方であったための遠隔映像通訳であった。イベント検査では PrEP に関する質問が目立った。

大阪府外国人 HIV 陽性判明者に対する医療通訳者派遣事業は、大阪府が契約した医療機関で HIV 陽性と判明した場合の告知、カウンセリング時に医療通訳を期間限定で派遣する事業を受託したが、依頼は 0 件であった。

## 2022 年度 HIV 検査時医療通訳実績(件数)

	検査場所	英語	中国語	ベトナム語
HIV 検査	京都工場保健会	38	-	-
	dista キャンペーン検査	3	1	-
	chotCAST	8	8	7
	大阪市保健所陽性告知	-	1	-
	杏林大学イベント検査	6	2	1
	杏林大学自治体検査	-	-	1
	HIV 検査関連通訳実施合計	55	12	9

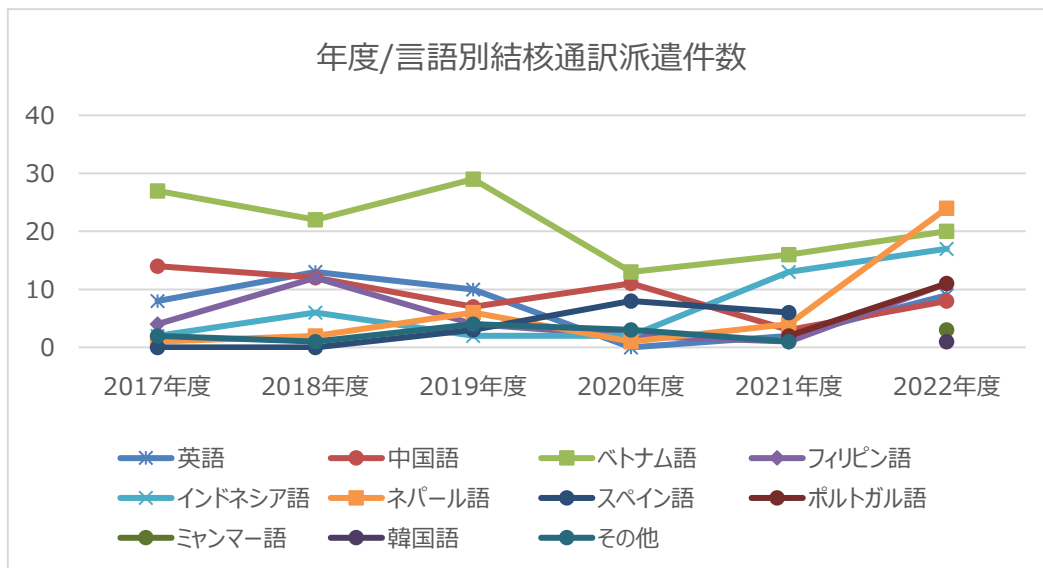
(合計 76 件)

5-1-3) 結核通訳事業

2022年度の結核通訳は5つの自治体から計104件(2021年度は48件)の依頼があり実施。前年度に比べて大阪市は190パーセント、大阪府が675パーセントと大幅に件数が増加した。

結核治療のために入院中の患者に対して結核治療の理解の確認と今後の保健師の支援計画についての説明、保健福祉センターでの患者や家族への聞き取り調査や接触者検診、日本語学校、自宅、職場でのDOTS指導等時の通訳を行なった。また、患者の体調不良、コロナ感染、治療の継続拒否などの理由で保健所からは通訳派遣の依頼がありながら実施できなかったケースが8件あった。

2022年度結核通訳派遣実績(件数)



大阪府内派遣先別リスト

依頼先	派遣先	英語	中国語	フィリピン語	ネパール語	ベトナム語	ミャンマー語	ポルトガル語	インドネシア	韓国語
大阪府	池田保健所								1	
	和泉保健所			1						
	茨木保健所						1			
	大阪はびきの医療センター					10				
	大阪複十字病院								2	
	近畿中央呼吸器センター	1		1						
	市立池田病院								8	
	野上病院通所リハビリテーション	1								
	患者自宅					1				
堺市	近畿中央呼吸器センター				1				2	
枚方市	済生会野江病院								1	
寝屋川市	大阪複十字病院				2					
	結核関連派遣合計	2	0	2	3	11	1	0	14	0

(合計 33件)

大阪市派遣先別リスト

依頼先	派遣先	英語	中国語	フィリピン語	ネパール語	ベトナム語	ミャンマー語	ポルトガル語	インドネシア語	韓国語
大阪市	生野区保健福祉センター								1	
	北区保健福祉センター				1	1				
	住之江区保健福祉センター分館						1			
	住吉区保健福祉センター			1						
	大正区保健福祉センター	2		3						
	中央区保健福祉センター		1					1		
	鶴見区保健福祉センター			2						
	浪速区保健福祉センター				1					
	西成区保健福祉センター		1		1					
	西成区保健福祉センター分館				1					1
	東成区保健福祉センター		1				1			
	港区保健福祉センター	1								
	都島区保健福祉センター分館				1	2				
	近畿中央呼吸器センター		2	1	2					
	大阪市保健所						1			
	大阪複十字病院	2			4					
	大阪はびきの医療センター		2							
	大阪社会医療センター				1					
	すがま呼吸器内科・整形外科				1			10		
	阪奈病院						2			
	その他の医療機関	1	1		1	1	1		1	
日本語学校				2				1		
患者自宅	1		2	4	1					
職場				1						
	大阪市結核関連派遣合計	7	8	9	21	9	2	11	3	1

(合計 71 件)

5-1-4) 感染症以外の通訳

2022 年度は、大阪総合医療センターと協議した上、個別で継続的な支援を要する患者への多言語支援として 11 件の通訳支援をおこなった。疾患は、デング熱、膵臓がん、白血病、クローン病であり、言語は、ミャンマー語、ネパール語、ベトナム語、フィリピン語であった。

5-1-5) 医療通訳者研修

HIV／結核通訳研修の通訳養成講座を開催し、4 日間の通訳研修を行なった。2022 年度の医療通訳研修も、2019 年度から続いて杏林大学北島勉氏を代表とする研究事業\*脚注 の一環として実施した。



研修日程： 1) 8月13日 10:00～14:30      2) 9月17日 10:00～14:30  
 3) 10月8日 13:00～17:00      4) 11月5日 12:30～17:00

目的：新しい医療通訳者の養成、すでに登録している通訳者の知識と技術の向上

言語別研修参加者： 英語 13 人、英語/スペイン語 1 人、中国語 8 人、中国語/英語/マレー語 1 人、  
 タイ語/ラオ語 1 人、ベトナム語 4 人、ミャンマー語 1 人、延べ 75 人

研修後 7 名が通訳者として新規登録した。(英語 4 人、中国語 2 人、ミャンマー語 1 人)

研修形態：zoom による遠隔研修



内容

- 1) 医療通訳に必要な結核・エイズの基礎知識
- 2) 感染症に係る社会保障制度、ワークショップ「医療通訳者の役割」
- 3) 通訳技能の向上について、言語別通訳技術に関するグループ演習、オンライン通訳について
- 4) 感染症通訳のための実技演習

演習実施言語：ベトナム語、英語、中国語(その他の言語通訳者は見学)

演習場面：結核と HIV に感染した患者とソーシャルワーカーとの間の通訳

HIV 告知場面での患者と医師の間の通訳

\*脚注 厚生労働省在留外国人に対する HIV 検査や医療提供の体制構築に資する研究班・研究事業、  
 研究代表杏林大学総合政策学部教授北島勉

## 5-2) 翻訳

行政機関や陽性者本人等から HIV や結核などに関連する資料等の翻訳の依頼があり、対応した。

実施した翻訳内容は下記の通りである。

依頼元	内容	言語
自治体 (大阪市)	結核患者向けの資料・DOTS 計画書等(2回)	日本語→英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、 インドネシア語、ネパール語、ミャンマー語、韓国語
HIV 検査会場 (大阪)	検査会場における資料等	日本語→ベトナム語
コミュニティーセンター dista	イベントチラシ	日本語→英語、中国語(2種類)、ベトナム語
CHARM 内部	HP へのお問い合わせ内容	日本語↔インドネシア語、中国語、ベトナム語
個人	民事裁判 判決書類	日本語→英語

## 6) 広報

### 6-1) 10 言語ホームページ、SNS での情報発信

これまで同様に継続的にホームページにて実施予定のイベントや関西圏内や全国での外国語対応する検査情報等の発信を行った。それに合わせて、SNS アカウントでもわかりやすい日本語、その他の言語で発信した。2022 年度のホームページの閲覧数の年間平均は 11,000/月に増加した(2021 年度 7,400/月)。CHARM のホームページは、海外からの閲覧も多い。HIV に関して唯一多言語で情報を掲載しているサイトであるため、来日を予定している外国人 HIV 陽性者が日本での医療事情を得る手段となっている。又生活者である外国人が、理解できる言語での HIV 検査や診療情報を求めるようになったことで閲覧者数が増加したと考えられる。

2023 年度は 2022 年度に実施できなかったスマートフォンやタブレットなどでも見やすく、そして利用者がより情報を入手しやすいようにホームページを改定していく予定。

### 6-2) ホームページを通じた相談

2022 年度は CHARM のホームページのフォームを利用した問い合わせ件数は 90 件であった。

その中で、HIV に関連するものが 76 件あり、昨年度より増加した。(2021 年度 54 件)

問い合わせの内訳は日本における医療制度・HIV 診療・医療機関が 53 件、HIV 検査情報が 14 件、海外ネットワーク情報が 5 件、通訳派遣 3 件、(日本語を話す)陽性者支援 1 件だった。

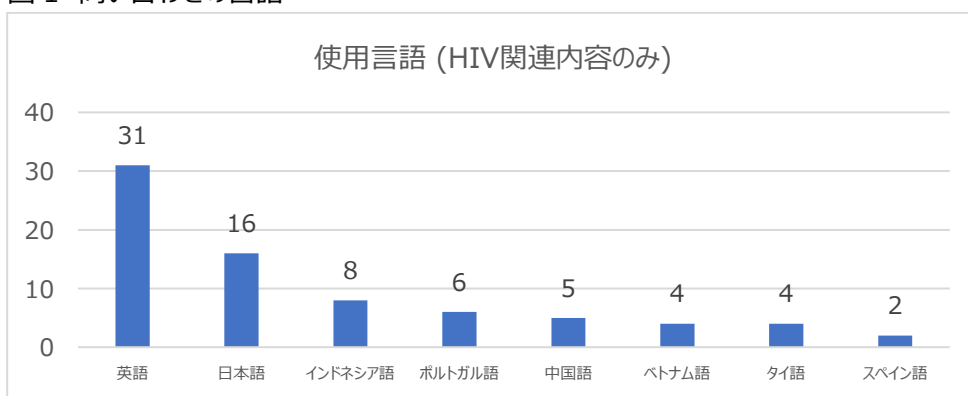
問い合わせで使用された言語は英語が最も多く 31 件、日本語 16 件、インドネシア語 8 件、ポルトガル語 6 件、中国語 5 件、ベトナム語 4 件、タイ語 4 件、スペイン語 2 件だった。(図 1 参照)

問い合わせのアクセス元は国内から 49 件(うち、外国人から 41 件)、海外から 26 件、不明 1 件だった。

2022 年度は日本国内に住んでいる外国人 HIV 陽性者からの問い合わせが一番多く(31 件)、続いて来日前の外国人 HIV 陽性者であった(25 件)。国内に住んでいる外国人からの問い合わせが昨年度よりも 20 件増えた(2021 年度 9 件)こと背景には、コロナ禍がようやく収まりつつあり、海外から日本に移住する人が増加していることが現れている。

また日本で生活している外国人の中には電話番号を持っていない外国人が少なくないため、ホームページや SNS などでの多言語による情報発信と問い合わせの受付は重要度がさらに増している。

図 1 問い合わせの言語



### 6-3) CHARM からの情報発信

CHARM の機関紙である Charming Times の発行を年 2 回行った。団体の機関紙は、一般に公開し、誰でも、どんな端末からでも閲覧しやすいように HP に文章、写真、イラスト等を使い、読みやすいように工夫した。一方、PDF 版もホームページからダウンロードできるようにした。一方紙媒体を希望する方やインターネットにアクセスが難しい方に配布できるように印刷物も作成した。

CHARMに関わるすべての人を「CHARMER」とし、事業やイベントの案内を2022年度も毎月配信を行った。毎月配信されるニュースを受け取り、その時に動いている活動について情報を得ることができると好評であった。配信を受け取る人は、CHARM会員、賛助員、活動メンバー、スタッフ、理事である。

#### 7) 実習・研修受け入れ

日時	主催機関・対象者	実施内容	参加者数
8月1日～ 8月5日	大手前大学国際看護学科	HIV陽性者の生活支援についての現場実習	6名
10月17日	大阪医療センター	施設見学と講義 「滞日外国人支援・陽性者支援の実際」	1名
10月26日	大阪市立総合センター	地域でHIV陽性者を見る訪問看護ステーションの 看護師との意見交換 「地域での支援活動」	6名
11月10日	CHARM陽性者支援	陽性者告知の講義と意見交換 「陽性者告知場面の対応」	5名
2023年 2月26日	大阪人間科学大学	HIV陽性者の地域生活を支える 「身寄りがない方へのサポート」オンライン	23名

#### 8) 理事会

理事長 松浦基夫  
副理事長 武田丈  
理事 中萩エルザ、白野倫徳、福村和美、川名奈央子、エレーラ・ルルデス・ロザリオ  
監事 三保俊幸

今年度は2回の会議を開催して協議検討を行った。

##### ●第1回理事会

日時：2022年5月15日(日曜日)10:00-12:00 参加 理事7名、監事1名

- 議事：1) 2022年度の事業計画と予算…承認  
2) 2022年CHARM会員総会の準備と役割分担…承認  
3) CHARM20周年記念事業進捗状況の確認…承認

##### ●第2回理事会

日程：2023年3月21-31日 書面決済

- 議事：1) 2023年度事業計画・事業予算…承認  
2) 2023年度新規事業 関西学院大学留学生医療・生活支援…承認  
3) 20周年記念事業の2年目  
「HIVの歴史を知る」国内フォーラム、20周年記念募金継続、  
CHARMホームカミング…承認  
4) 人事 会計担当と外国人HIV陽性者支援担当の2人が2022年度末に退職。  
新たに2人を4月から採用する。…承認  
5) 2023年CHARM会員総会

日程：2023年6月17日(土) 14:00-16:30

場所：在日大韓キリスト教会大阪北部教会で3年ぶりに開催の予定。

## 9) 会員総会

日時：2022年6月25日(土) 15:00-17:00

手段：zoomによるオンライン開催

出席：正会員 38名のうち29名が書面決議 当日オンライン出席者 34名(内傍聴 14名)

I.議事：2021年度の事業報告及び活動決算について…承認

2022年度の事業計画及び活動予算について…承認

II.基調講演：「多言語支援の必要性—医療従事者の立場から感じること—」

森田諒 (大阪市立総合医療センター感染症内科医師)

多様な言語背景の患者を受け入れる市民病院で臨床現場から感じる多言語支援の必要性について問題提起を受けて、参加者で意見交換を行った。

III.CHARM20周年記念事業計画と進捗状況について事業担当理事が報告を行った。

1) 国際フォーラム 2022年 2) 国内フォーラム 2023年

3) 日本におけるHIVの歴史を表す年表作り 2022-2023年 4) 20周年特別募金 2022-2023年

5) これまで20年間CHARMに関わった人たちが集まるホームカミング

## 10) 事務局

青木理恵子 (事務局長、理事会、総務、SPICA)

庵原典子 (通訳派遣事業)

ブーボンキワラシ (広報全般、外国語によるエイズ電話相談、オンラインプログラム)

オンバダ香織 (女性陽性者交流会)

前田圭子 (会員管理、総務)

松原光与 (会計、総務)

三田洋子 (エイズ専門相談、そよかぜ、HIV総合相談窓口 SO SO SO、陽性者支援、実習受け入れ)

津田幸乃 (移住 HIV陽性者への医療情報提供とフォローアップ、20周年記念事業国際フォーラム)

## 11) 会員

会員数 112名 (前年比 +4名)

〈内訳〉

サポーター (賛助 A) 33名

サポーター (賛助 B) 34名

正会員 41名

法人・団体サポーター 4 (21口)

## 12) 寄付者名一覧(敬称略)

○ 一般寄付 個人

青木節子、青木理恵子、秋間桂子、安間ちよ子、飯田富美子、井川美代子、磯辺豊、今泉晶久、

岩元美和子、植田恵美、植地直也、宇野園子、大久保絹、太田知子、奥野有佳、尾崎正明、尾崎るみ、

織田幸子、小田美乃里、加藤政人、神谷安恒、亀山俊樹、川江友二、菊池理恵、岸川重弘、金香百合、

小泉世津子、小林愛子 Gray、小林直子、佐藤修郎、関祥子、高橋尊治、高橋茜、岳中美江、谷口裕子、

豊島裕子、永富美加、成田康子、新倉久乃、西川貴美子、林仁子、プーポンキワラシン、松浦千恵、松浦基夫、松原光与、三田優作、宮本久子、三輪敦子、森本あんり、八木路子、安田千恵、山口和子、山本いづみ、米本キャサリン、匿名 13 人

○ 一般寄付 団体

京都ワイズメンズクラブ

日本基督教団 大正めぐみ教会

日本基督教団 池田五月山教会

日本キリスト者医科連盟 京都・滋賀部会

○ 20 周年記念寄付 個人

荒巻富美、飯田奈美子、石川敏夫、今井由三代、岩元美和子、宇野健司、逢坂隆子、奥井裕斗、軽込郁、来住知美、金香百合、神門佐千子、小柳ゆみ子、酒井秀子、SantaClaus、汐碓直美、関祥子、園中その子、田上誠、武田丈、岳中美江、田島千里、立川美江、田中春香、田守敏樹、崔金順、辻早苗、豊島裕子、中萩エルザ、成田康子、狭間明日実、林律、福嶋眞一、マーサメンセンディーク、松岡綾子、松岡裕子、松下恵子、松野周治、三田洋子、宮本久子、八木路子、矢野静儀、山口樹、LewKingFoong、リンパヤラヤスプラーニー、匿名 2 人

○ 20 周年記念寄付 団体

一般社団法人ぶろっさむ(つぼみ薬局)

日本基督教団 京都上賀茂教会